

令和3年度 第10回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和4年1月11日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後 2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後 4時00分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 兼 米田 昭嗣
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

1 開会

定刻、定足数に達しており、令和3年度第10回教育委員会定例会を開会した。
議案第5号は、教育長から、非公開で審議する旨の発議があり全会一致で議決された。

2 令和3年度第9回定例会会議録の承認

承認

3 議事

報告第1号 垂水市令和3年成人式（延期分）及び令和4年成人式開催に伴う
新型コロナウイルス感染症検査費用助成事業実施要綱について

議案第1号 垂水市立学校運営協議会設置規則の制定について

議案第2号 垂水市立学校評議員設置要綱の廃止について

議案第3号 垂水市小規模校特別認可制度実施要綱の一部改正について

議案第4号 垂水市立学校管理規則の一部改正について

議案第5号 垂水市教育支援委員会答申について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第1号 垂水市令和3年成人式（延期分）及び令和4年成人式開催に伴う新型コロナウイルス感染症検査費用助成事業実施要綱について</p>	<p>垂水市令和3年成人式（延期分）及び令和4年成人式開催に伴う新型コロナウイルス感染症検査費用助成事業実施要綱について、教育長の臨時代理により制定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第1号 垂水市立学校運営協議会設置規則の制定について</p>	<p>垂水市立学校運営協議会設置規則の制定について、これまでの学校評議員会制度に変わるものとして、新たに学校運営協議会を設置しようとするものである。</p>	<p>特記事項 議案第1号、第2号及び第4号については、関連があるので一括して説明・質疑とする。</p>	<p>承認</p>
<p>議案第2号 垂水市立学校評議員設置要綱の廃止について</p>	<p>垂水市立学校評議員設置要綱の廃止について、学校運営協議会を新たに設置することから、廃止するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
<p>議案第3号 垂水市小規模校特別認可制度実施要綱の一部改正について</p>	<p>垂水市小規模校特別認可制度の実施校に、牛根小学校と松ヶ崎小学校の2校を追加するため、実施要綱の一部を改正するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
<p>議案第4号 垂水市立学校管理規則の一部改正について</p>	<p>これまでの学校評議員会制度に変わるものとして、学校運営協議会を新たに設置するため、学校管理規則の一部を改正するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>

<p>議案第5号 垂水市教育支援委員会答申について</p>	<p>垂水市教育支援委員会の答申を受けて、児童生徒の望ましい措置を決定しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
-----------------------------------	---	---------------	-----------

議 事 内 容 等

<p>3 議 事 社会教育課長</p>	<p>報告第1号 垂水市令和3年成人式（延期分）及び令和4年成人式開催に伴う新型コロナウイルス感染症検査費用助成事業実施要綱について</p>
	<p>垂水市令和3年成人式（延期分）及び令和4年成人式開催に伴う新型コロナウイルス感染症検査費用助成事業実施要綱について、教育長の臨時代理により制定したことを報告するとともに、その内容について説明。</p>
	<p>議案第1号 垂水市立学校運営協議会設置規則の制定について 議案第2号 垂水市立学校評議員設置要綱の廃止について 議案第4号 垂水市立学校管理規則の一部改正について</p>
<p>教育長</p>	<p>これら3議案については、いずれも関連するので、学校教育課長から一括して説明を受けた後、委員の皆様にはご質問等していただきたい。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>これまでの学校評議員会制度に変わるものとして、学校運営協議会を新たに設置しようということから、議案第1号、2号、4号については、いずれも関連がある為、その内容について一括して説明。</p>
<p>教育長</p>	<p>少し補足すると、俗に言う「コミュニティースクール」へ移行するということである。一番の難点は、設置規則第4条のところに、（教育課程の編成に関すること）から（その他校長が必要と認めること）まで7項目あるが、実は文科省が示しているものによると、人事に関することについても一言添えてあったが、あえて本市の規則では意図的に外してある。県下の市町村でもその文言を残しているところも結構あるが、本市はあえて人事に関するところは委員さん方に求めないというスタンスで、この条項の中には載せていない。説明の中でもあったが、第7条（5）で関係行政機関の職員ということで、教育委員会の職員がこの中に入ってくる。我々も委員の皆さんから忌憚のない意見を賜ることが、結果として、よりよい学校づくり、よりよい行政運営にも寄与することになると考えている。</p>
<p>田原委員</p>	<p>公民館などもコミュニティーセンター等に移行している状況なので、コミュニティースクールへの移行も当然だと思うが、11ページの「（6）その他教育委員会が必要とする認める者」は、例えば自分達のような教育委員もそのメンバーに入ることもあるのか。</p>

学校教育課長	その学校の要望があれば、入っていただくことになると思うが、別に何の支障もない。
田原委員	学校評議員も同じ扱いだっただ。
教育長	田原委員も水之上小学校の学校評議員をされていた。
田原委員	以前は入っていたこともあったが、今は入っていない。人事の面が入っていないということで少し安心した。自分も学校にいたときに経験があるが、特に中学校の場合など、部活動絡みで地域からの要望等で議員からの圧力に苦しんだことがあるが、人事に関するものが入っていないとはいけないか、あったら困るなという気持ちである。
学校教育課長	部活動がこれからも一番の課題になってくる。本市の場合も、人事の時には学校長は必ず「この部活動が指導できる教員をください。」と要望が上がってくる。特に今の中央中はソフトテニスが大きく関わっていて、このあたりも常に要望してある。今度は「剣道部の強化」という話があり、垂水幹部派出所長と連携が取れて、署員を派出所から週に1回でも中学校に指導に行かせるという形で教育長が話をまとめてくださった。また、学校だけに任せるのではなく、「こんなふうにやっていきましょう。」と言っただけの協議会になるようにもっていきたいと思っている。学校を批判するとか、学校に圧力を掛けるのではなく、違う形で学校を支援してもらえそうな会として捉えたいと考えている。「垂水市は今でもしっかりできているので、ある意味、制度の名前が変わり委員の数が増えるだけという捉えた方でいてください。」と地区教にも話をし、ご理解いただいている。
教育長	職員団体に対しては、「今より協力を求めやすくなると理解してください。決して批判的な会ではなく、よりよくなる為の建設的な話し合い、意見を賜りたい。」と言ってある。第1号議案をご承認いただいたら、学校評議員設置要綱の廃止、学校管理規則の一部改正と作業を進めたいと考えている。
田之上委員	校長・教頭は、「第7条（3）対象学校の運営に資する活動を行う者」に該当するのか。
学校教育課長	いいえ、その中には入らない。
田之上委員	第7条（1）～（6）により任命された中から会長・副会長を選ぶのか。
学校教育課長	そういうことになる。今までは学校長もしくは教頭が司会をしてきたが、これからは会長が司会をすることになると思うので、よりその組織をしっかり確立させるために、会長・副会長を決めるという形になる。
田之上委員	第7条（1）～（6）により任命される人の割合は学校に任せるという

	ことか。
学校教育課長	そういうことになる。
教育長	学校から要望があり教育委員が委員になった場合、会長を受けるとなるとあまり相応しくないと思う。あくまでも教育委員は意見を述べる側だと思うが、そういう理解でよいか。
学校教育課長	そういう理解でよいと思う。 (議案第1号、議案第2号、議案第4号 承認)
	議案第3号 垂水市小規模校特別認可制度実施要綱の一部改正について
学校教育課長	所謂、特認校制度の実施要綱の一部改正について、現在、境小学校が1校特認校となっているが、これに松ヶ崎小学校と牛根小学校の2校を追加し、特認校を3校にするという一部改正である。
教育長	牛根3校については、非常に我々も何とかしなければいけないという強い思いがある。今後の児童数も見据えながら、この3校の在るべき姿、子供たちにとって、保護者・地域にとって、本当にどうすることがよいことなのかというところは直近の課題として受け止め、真剣に考えていかなければいけない。その前提として特認校制度をご承認いただけますか。
全委員	「はい。」 (議案第3号 承認)
	議案第5号 垂水市教育支援委員会答申について (非公開) (議案第5号 承認)
4 その他	
教育総務課長	前回、12月の教育委員会定例会において、教育委員と教育委員会職員との情報交換会を提案したが、全国的にオミクロン変異株が猛威を振るいだし、第6波が到来した感がある。現在、本市は飲食については、人数・時間制限はない状況ではあるが、1月下旬はどうなっているか分からないことから、延期したい旨を伝え、教育委員の了承を得た。
5 委員並びに教育長及	委員並びに教育長及び課長報告。

び課長報告	
教育長	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	<p>「成人式について」</p> <p>二つの成人式の感想を述べたいと思う。1月3日の延期された分の成人式は、やはり参加者が少なくて少し気の毒に思った。しかし、参加者の態度や司会者及び代表者の主張は、大変落ち着きがあり、既に職について自立している人もいて、仕事を通じて社会に貢献したいという気持ちを強く感じて、よいことだなと思った。</p> <p>1月5日の今年の成人式は参加人数も多かったが、久々に会えた喜びを抑えきれないような賑わいが見られ、私たちも嬉しくなった。</p> <p>4人の代表者の主張も過去の自分を振り返り、今の自分があるのは、親を始め、関わってくれた周りの人々のお陰だということに気づき、特に親に対して感謝と共に恩返しをしたいという気持ちを強く持っていることに強い感動を覚えた。社会人となって、無力な自分に気づかされたことや長いコロナ禍の中で思い通りにならない日常を我慢することや工夫すること、人との絆を振り返るよい機会になったのかも知れない。</p> <p>また、新成人のほとんどが、コロナ禍の中で最善を尽くして成人式を準備し開催してくださった関係者への感謝の気持ちも忘れていないことにも感心した。今年は全国的にも、自覚のない行動をした成人はいないのではないかと思う。</p> <p>4月1日から18歳成人となるということで、成人式をいつにするかが問題になっているが、今年例などを見て、やはりじっくり自分を振り返る時間が必要であると思うので、20歳成人式が望ましいのではないかと思う。</p>
葛迫委員	<p>「和田英作・和田香苗記念絵画コンクール搬入から審査会について」</p> <p>昨年度は開催できなかった「和田コン」だったが、本年度は何とか開催できるところまでこぎ着けた。作品の搬入を12月19日（日）に行い、午前中に搬入が集中したが、大きな事故もなく無事終了することができた。</p> <p>翌日20日（月）は鹿児島市内の画材店に搬入された作品やジュニア部門の作品が搬入されてきた。一般部門については札幌や静岡などの遠方からの作品もあり115点、ジュニア部門は398点、合計513点の作品が集まった。前回に比べ、一般部門からは高校生の出品数が増えたが、ジュニア部門の作品数が前回より120点ほど少なかったようである。</p> <p>24日（金）は市民館大ホールで作品審査を行った。午前中に一般部門の審査、午後からはジュニア部門の審査を、前回同様3人の審査員で行った。</p> <p>午前中の高校生以上の一般部門の審査では、審査員の二人が賞を与えたいと感じた作品には「賞候補」とした。応募作品110点の中から3点の招待作家作品、87点の入選以上（50点ほどの作品が賞候補）、20点を選外とすることに決めた。午後からは50点ほどの賞候補作品の中から、「和田英作賞」他27点の賞を決定した。最高賞の「和田英作賞」の作品は鹿児島市の女性の方で女性が最高賞を射止めるのは初めてのことだった。彼女は2</p>

点の作品を出品していたが、どちらの作品も評価が高く「和田英作賞」に輝いた作品《その時》は、「樹木から降り落ちる雨粒の一瞬の様子を巧みな技術と構成力で描き、消えゆく雨模様にはそのはかなさが表現されていて、また観るものにも様々なイメージをも与える知的な作品。」であると感じた。

その他の三賞の「優秀賞」と「新人賞」は垂水市の女性の方々の作品が受賞されたので、ホットしたところである。今回の応募作品は、前回より高校生の作品が多く出品されていた。南大隅高校と鹿屋高校から10点が出品され、その中の2点が奨励賞に輝くことができた。高校生らしく画面の大きさにこだわらない迷いのない作品が好感を抱いた。次回も若々しい高校生の作品が数多く出品されることを祈っている。

次にジュニア部門については、前回の517点から今回は398点の出品になった。しかし応募された作品には、子供たちの絵画に対する情熱が伝わってくる作品が数多く見られ、一年一年レベルアップしているなどと思うところだった。特に色彩感覚や描写表現方法のレベルアップが感じられ、江ノ島幼稚園・水之上こども園・さざなみ保育園・水之上小学校・垂水小学校の子供たちの作品には好感を持ったところである。「学校賞」には水之上小学校が選ばれた。江ノ島幼稚園・垂水小学校にも来年度以降は頑張ってもらいたいと思う審査会であった。

展覧会は、今月16日（日）から23日（日）まで開催する。開場式は行いが、毎回開催していた授賞式やギャラリートークは、今回は開催しないことにした。但し、ギャラリートークの代わりに、「出品者を対象とした絵画講座」を開催することになった。全国でもあまり聞いたことのない企画であるが、「絵画を描くために困っている方へのアドバイス」になるような講座になればいいなどと思うところである。

「成人式について」

田之上委員

成人式を無事に開催することができてよかったと安堵した。実行委員の皆さんをはじめ、成人を迎えた皆さんの想いのこもった式典だったと思う。コロナ禍にあっても、前を向いて歩みを進めている皆さんの様子を見ることができてうれしく思った。二十歳の主張は、今までを振り返り、これから自分が進んでいく道をしっかりと考えていてすばらしいものだった。また、テレビの報道等で各地の成人式の様子を伝えていたが、コロナ感染が広がりつつある今、現状を受け止めて、自分たちがどうすべきかを考えて行動しようとしている若者たちの姿を見て、立派だなと思うことだった。

今日から3学期が始まった。少し長い冬休みだった、子供たちが家族や友達と楽しく過ごせていたらいいなど思う。今朝は中央中学校の「朝のあいさつ運動」に参加した。雨の新学期だったが、生徒たちが元気に登校し大きな明るい声で挨拶してくれて、とても爽やかな気持ちになった。3年生はいよいよ私立の高校入試も始まる。本当にコロナが心配ではあるが、小・中学生、幼稚園の子供たちも含めて、子供たちが元気でまとめの学期を送ってくれたらいいなど思うところである。

福里委員

「中学校の説明会に参加して」

12月16日だったが、中学校の説明会に参加した。子供たちと一緒に体育館での説明会だった。子供たちは全員タブレットを持ってきていて、子供たちはそれを見ながら、保護者は紙を見ながらの説明会だった。子供たちはタブレットに戸惑うこともなく、操作する姿を見てすごいなと感じた。その中でしっかりとルールなども説明されていた。先生の話の中で、「子供が中学校で大きく成長するための大切なポイントが二つある。それは自立と素直さである。」という話があった。

子供たちに対して、「悪いことをしたら謝れますか。」と手を挙げさせたところ全員の手が挙がったが、今度は「それは妹や弟に対しても謝れますか。」と聞かれたら、今度は手を挙げた子供の数がかなり減少した。先生は、「悪いと思ったら素直に謝ることが大切だ。」と子供たちに話されていた。「自立」という意味では、「自分の机の上の片付けができていますか。」と聞かれ、「それも大事なことなんだ。」と言われていた。保護者に対しては、「子供たち自身で色々なことを解決する力を付けさせるために、親がすぐに子供に声をかけたり、アドバイスをするのではなく、じっくり見守って欲しい。」と話をされた。子供たちにも「失敗をしてもいいんだよ。でもそれを解決する力を身に付けなさい。」と言われていた。最近では部活動をする子供が少なくなったとの話もあった。説明会の案内文には、部活動の見学ができると書いてあったが、ちょうど説明会の日が木曜日で部活動がない曜日だったようで、見学ができずに残念がる子供たちも多くいた。

教育長

大きく三点のことについて話をしたいと思う。

一点目は、先程、田之上委員からも話があったが、全ての小・中学校で3学期が始まった。学校への事前指導というところと言うと、やはり新型コロナウイルスのオミクロン株の爆発的な流行というところを警戒して、今はまだ県の警戒レベルは1を継続しているが、レベル2の心積もりを持って、しっかりと児童・生徒あるいは教職員を指導して欲しいということ管理職に伝えてある。つまり、これまでの徹底した感染対策を更に徹底して欲しいということである。兎に角、感染力がこれまでの倍とか感染スピードが倍とか言われるが、やっぱりオミクロン株は怖いと思う。そういう意味で、コロナに「かからない」、そして「移さない」というところが大事だろうと思う。先程も話に出たとおり、こういう時だからこそ落ち着いた学校生活を送らせたいと思うし、しっかりと3学期を締めくくり、次の学校へ、あるいは次の学年へというところを意識した指導をお願いしたところである。何と言っても受験生を守るというところに最大限の配慮をして欲しい。それが学校の使命ではないかと思っている。他県ではもうすでに私立の中学校、高等学校の受験が始まっている。そういうところを踏まえると、今週末は大学の共通テストということで、受験生にとっては勝負の日を迎えようとしているが、是非子供たちが無事に受験できるように願っている。

二点目は、先程来皆様の話題になっている1月3日、5日の成人式の件であるが、やっぱり垂水の子供たちって素晴らしいと思う。きっとあの金髪の姿などを見ると本当はやんちゃな子なのだろうと思う。また、そう

いう時期でもある。「二十歳」と言えば、自分達もそうであった。しかし、大人の仲間入りを果たす大事な儀式なんだとしっかり自覚している子供たちで、すばらしいなと思うことであった。

まず、令和3年分の成人式。子供たちは62人の参加だったが、「二十歳の主張」をした二人は非常に素晴らしかった。そのうちの一人は消防士。殆ど原稿を見ず、原稿に目を落とすことなく、正面を見ながら話をしていて、「ああ、この子は素晴らしいな。」と思うことだった。もう一人の女の子も素晴らしかった。やはり、ああいう子供たちは「二十歳の主張」をするにあたっての姿勢というか心構えが違うのだろう。大役を引き受ける段階から全然他と違うのだろうと思った。

一方、令和4年分は83人の参加。130人が対象なので、このコロナ禍を考えるとかなり参加率はよい方である。私が一番感心したのは、実行委員長である。あの子はいいなと思った。自ら実行委員長をやりたいと手を挙げたらしく、お母さんを困らせて苦労を掛けたということで、回り道をしたけど、これからは親孝行をしたいと話していた。他の子たちの「二十歳の主張」もよかった。奇抜な格好のあの男の子も普段はあんな子じゃないそうで、内に籠もって人前ではものを言えなさそうな子が堂々とファッションリーダーになりたいという話をしていて。女の子たちもいずれもしっかりしていた。感謝の気持ちを持ち、社会貢献の熱い思いを語り、しっかりしているなと思うことであった。

また、社会教育課の職員も休みを返上して頑張ってくれた。皆さんのお陰で本当にいい成人式ができたと思うし、また来年度に繋がっていくと思っている。

三点目が世界的に有名な一級建築士の安藤忠雄さんについてである。この人が出てくるNHKの番組を見ていたが、この人は実に面白い人である。「自分の得た富は、すべて世の中の為に使って死にたい。」と言われる人である。その一端として何が出てくるかと言えば「こども本の森」、図書館のことである。しかも、あちこちに寄贈しておられる。この人はコロナを予見していたかのような動きをされている。「こども本の森 中之島」というのは、2020年7月5日に開館している。「こども本の森 遠野」というのは2021年7月25日に開館。コロナ禍である。「こども本の森 神戸」というのが今年の春にオープンするらしい。建物から本から全て寄贈される訳なので金額の桁が違う。すごい人だと思った。それから面白いなと思ったのが、そのコンセプトの違いである。例えば、「こども本の森 中之島」のコンセプトは「こどもたちの素直な眼差しと感受性。」同じコンセプトを「遠野」でも使っているのかと思ったら、「遠野」は違っていて、「想像力（イマジネーション）と創造力（クリエイティブ）」。さまざまな人や本が集まり、想像力と創造力を育む場となることを願って造られたそうである。こどもたちにとって、いかに読書が大切か、本が大切か、手に取って読む読書の大切さを、この安藤さんはNHKの番組で熱く語っておられた。私も本（読書）によって心に伝わる世界を大事にしたい。そして、偶然手にした本で人生が変わるといことも言っておられた。

最後に、なるほどと思ったのが、「責任感のある個人を育てることが、教育の究極の目的ではないか。」と言われていた。私も全く同感であった。「責任感のある個人を育てる。」先程、「自立」という言葉も出てきたが、これ

は大事だなと思いながらテレビを見ていた。このような世界的に有名な一級建築士である安藤さんが見据えている世界というのは、次の世代の子供たちをどう育てていくかというところに視点が移っているのだなと、嬉しく思うことであった。

ちなみに鹿大の稲森会館を設計されたのも、安藤忠雄さんである。寄贈されたのは稲森和夫会長だが、その設計は安藤忠雄さんがされている。色々ところの斬新な建築物の設計もされていて、美術館関係も多く手掛けておられる。元々はボクサーで、それから独学で建築の勉強をされたということである。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

3課長から、12月10日から1月11日までの主な行事等の実施状況について報告するとともに、2月8日（次回開催日）までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会